都道府県別賞一等

祖母の笑顔

大阪府　大阪市立三国中学校　三学年　向井　莉緒

私には七十二歳になる祖母がいる。祖母が五十三歳の時に末期の大腸ガンになったそうだ。

当時の母は二十六歳で社会人として働いていた。祖父は当時五十六歳。医療関係の仕事だった為、とても忙しく、出張で飛び回っていたそうだ。母の話によると、出張から帰ってきた祖父と三人で食事をしている時、祖母は味覚の異常と体のだるさを訴えた。当時は祖母も仕事をしていた為、母と祖父が病院に行くようにすすめても祖母はなかなか行こうとはしなかった。三カ月ほどたった頃、祖母がまだ病院に行っていないことを知った祖父が急いで祖母を病院に連れていった。

大腸ガンだった。すでにステージ４の大腸ガンでリンパ節に転移していた。医師には、手術でガンが取り除けるかわからないと言われ、とても忙しかった祖父だが、仕事より祖母の命が大切だと、仕事を早期退職して、手術をしてくれる病院を必死で探したそうだ。母は祖父が仕事を辞めることに不安を覚えたが、祖父が

「十分な医療保険に入っているから大丈夫だ、心配するな。」

と言ったそうだ。

その後、何軒もの病院に行ったが断られてしまった。最終的に、祖父の友人のつてで大きな病院の名医が祖母の手術をしてくれることになった。三度の手術と抗ガン剤治療、放射線治療で時間はかかったが、徐々に元気を取り戻した。

祖父に話を聞くと、保険に入っていて本当に助かったそうだ。ガンと診断されると一時金が出され、手術費、入院費、その他にも通院にかかる費用も保障されたそうだ。

祖父は仕事熱心だったが、退職をして後悔をしていなかった。祖母のそばにずっと居られたこと、今まで忙しかった分、いっぱい話をして貴重な時間を過ごすことが出来たと微笑んでいた。きっと保険に入っていなかったら、先のことを考えて退職する勇気もなかったかもしれないと話していた。普段、口下手で、あまり会話をしない祖父であったが、祖母を思いやる祖父の言葉がとても印象に残っていると母は話していた。

今、祖母はとても元気だ。よく冗談を言って笑わせてくれる。祖母があの時、病気で亡くなっていたら、祖母の笑顔に出会えていなかった。祖母が助かったのは、祖父がきちんと生命保険について学び、備えていたからだろう。病気はいつなる

かわからない。万が一に備えて保険に入ることはとても重要なことで、私たちの生活を支えているのだとわかった。私たちが元気で暮らしていけるのは、生命保険という安心があるからだ。

祖母にはいつまでも笑顔で長生きしてほしいと思う。